

# あかみ 連医民

2022年1月21日発行

第297号

【8面オールカラー】発行部数2,990部

発行元／青森県民主医療機関連合会

所在地／〒030-0822 青森県青森市中央1丁目6-8 3F

TEL. 017 (723) 4076

FAX. 017 (773) 5326

URL <https://aomin.jp/>

e-mail [info@aomin.jp](mailto:info@aomin.jp)

## 謹んで新年のご挨拶を 申し上げます



青森県民主医療機関連合会

会長 田代 実

### 今年、平和と憲法と

#### 今年について考えよう

新年あけましておめでとうございます。昨年、患者・地域住民の生活に寄り添い、人権を守る医療、介護、福祉活動の取り組みに努力されたすべての県連職員に心から敬意を表します。今年、平和と憲法をめぐって重大な年になると思われ、このことについて考えてみたいと思います。

#### ●なぜ、軍備拡張をやめられないのか？

「世界を破壊するための精鋭な武器をいくら装備しようとも、目に見えない半生物体であるウイルスを根絶できず、累々たる犠牲者を生み出す一方である。そのような状況であるにも拘らず、世界中で軍拡路線が止まりそうにない。環境の悪化が地球の

異変をもたらしかねないとも何度も警告が発せられているのに、さらに武器の絶えざる生産と更新のために資源とエネルギーの膨大な浪費を行い、軍事予算を環境の整備のために転換する動きはまったく見られない。その背景にあるのが『軍事力による戦争の抑止論』なのだが、それはアリ地獄への転落でしかない。戦争を真に抑止するのは、人間の理性と道理に基づいた人間力であり、一切の軍事力を放棄した世界こそ人類の目標としなければならないのではないか。」(池内了氏「戦争を抑止できるものは何か」二〇二〇年)。

私は、池内氏のこの見解に強く共感します。

#### ●今年は、憲法改定が重大な焦点に

今年、「平和憲法」の抛り所である日本国憲法第九条の改定が大きな焦点になると予想されます。

昨年十月末の総選挙の結果、自民・公明両党は安定多数を確保し、第二次岸田政権が発足しました。岸田首相は憲法改定の実現に向け「自民党内の体制を強化すること」、「国会における精力的な議論を進める

こと」を指示し、自民党は「憲法改正推進本部」を「憲法改正実現本部」に名称変更しています。加えて、維新の会や国民民主党も「憲法改定論議の加速を」と発言し、立憲民主党に対して憲法審査会の毎週の開催を要求した、と報道されています。一方、このような政治の状況が継続的に報道されることはなく、国民に十分な情報提供がされていないとは言えません。

#### ●憲法の平和条項はなぜ生まれたか？

平和憲法がなぜ生まれたのかを考えるために、やや長くなりますが以下の文章を紹介します(吉岡忍日本ペンクラブ会長「われらピープルの主権を生かすために」二〇一八年)。

「日本国憲法が戦争の惨禍から生まれたことは、まぎれもない歴史的事実です。戦争から抜け出した人たちが新たな国の形を得て、どれだけほっとしたか…。

第二次世界大戦はたしかにひどい戦争でした。…戦況の推移は措くとして、この戦争で少なくとも見積もっても五千万人が犠牲となった。三千万人がヨーロッパの、二千万人がアジアの死者です。アジアの二千万人

日頃のご協力・ご愛読に感謝して **抽選で22名にお年玉プレゼント** 応募は定期便・封書・FAXで！  
応募用紙及び応募の詳細は本紙8面に掲載しています。抽選結果は次号(3月15日発行)に掲載予定。応募締切／2022年2月16日



のなかには、沖縄の地上戦、各都市への空襲、広島・長崎の原爆による死者もいれば、中国大陸から南太平洋の孤島にまで広がった戦場で玉碎し、病死し、餓死していった死者もいる。これら日本側の兵士や民間人の犠牲者は三百十万人でした。

しかし、とすると、残りのおよそ千七百万人はどこの、誰なのか。彼らはどのような死に、殺されたのか。アジア各地に攻め込んだのは日本軍だけなのですから、多かれ少なかれ彼ら（＝日本軍）こそが膨大な死に手を貸していたと考えないと辻褄が合わない。いかに戦争だったとはいえ、その手で殺し、奪い、犯し、焼き尽くした体験はそう簡単に忘れられるものではありません。

ほんとうに、なぜだったのか。よき息子、よき夫や父親だった男たちはどうして千七百万人ものアジア人を殺し、死に追いやることができたのか。

唯一可能な答えは、戦争が人間を変えた、ということしかないでしょう。どんなによき人間でも徴兵され、軍隊でしごかれ、戦場に連れていかれると人が変わった、あるいは変えられた、変わらざるを得なかった。そして、その前にも後にも決してしないような蛮行に突き進んでいった。

戦争はもうこりこりだ、と誰もが言いました。…そのこりこりのなかには、軍隊や戦争によって自分が自分でなくなってしまう、とんでもないことをしてしまった、と

いう元兵士たちの取り返しつかない悔恨、うしろめたさも確実に含まれていたはずです。

そうした全体を汲み上げて、われら日本国民は「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」という日本国憲法がつくられた。それを具体化する条文が第九条の一項「戦争の放棄」と二項「戦力の不保持・交戦権の否認」です。このため、この憲法は「平和憲法」の別名を持つことになります。…見落としてならないことは、この憲法を平和憲法として受け止め、実体化してきたのが、かろうじて戦争を生き延びた日本人だったということです。」

以前から、日本で近代史・現代史の事実に基づいた教育が立ち遅れていることが指摘されていますが、私たちは、ピールとして主権を活かすために根気強く学び直していくことが重要になっていると考えます（とりわけアジア・太平洋戦争で何が起こったのか、について）。

●いま一度「九条の会アピール」(二〇〇四年)を

いま、あらためて二〇〇四年に始まった「九条の会」の取り組みを想起することが大切だと思います。以下にアピールを引用します。

「日本国憲法は、いま、大きな試練にさ

らされています。…憲法制定から半世紀以上を経たいま、九条を中心に日本国憲法を『改正』しようとする動きが、かつてない規模と強さで台頭しています。…これは日本国憲法が実現しようとしてきた、武力によらない紛争解決をめざす国の在り方を根本的に転換し、軍事優先の国家へ向かう道を歩むものです。私たちはこの転換を許すことはできません。…二〇世紀の教訓をふまえ、二一世紀の進路が問われているいま、あらためて憲法九条を外交の基本にすえることの大切さがはつきりしてきています。…そのためには、この国の主権者である国民一人ひとりが、九条をもつ日本国憲法を自分のものとして選び直し、日々行使していくことが必要です。それは、国の未来の在り方に対する、主権者の責任です。」

多くの職員が今年も忙しい日々を送ることになると思いますが、私はそのような中でも憲法と平和をめぐる問題について、学び合い話し合い、行動したいと思っています。

硬い文章を（そしてやや長い文章を）最後まで読んで下さり、ありがとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

青森県民医連第55期役員

役職名	氏名	職種
会長	田代 実	医師
副会長	伊藤 真弘	医師
副会長	相馬 裕	医師
事務局長	佐藤 真人	事務
事務局長	下館 大史	事務
事務局長	篠原 奈緒	事務
事務局長	石田 晋吾	事務
理事	石塚 理仁	介護福祉士
理事	泉谷 雅人	事務
理事	磯島 寿人	医師
理事	伊藤 礼子	看護師
理事	小形 てる美	事務
理事	角田 尚樹	事務
理事	菊池 中央	事務
理事	越田 潤一	事務
理事	古舘 正志	事務
理事	今 淳一	事務
理事	坂戸 慶一郎	医師
理事	崎野 修	事務
理事	佐々木 良範	作業療法士
理事	獅子内 和子	看護師
理事	関谷 修	医師
理事	相馬 渉	薬剤師
理事	副田 幸子	看護師
理事	竹内 一仁	医師
理事	橋本 千景	看護師
理事	田中 由紀	看護師
理事	田中 圭	理学療法士
理事	對馬 由美	看護師
理事	寺島 美和	看護師
理事	奈良原 恵	看護師
理事	西村 美和	薬剤師
理事	原 徹	事務
理事	兵藤 尚	事務
理事	外基 清仁	事務
理事	三浦 良成	事務
理事	三津谷 靖子	看護師
理事	宮本 達也	事務
理事	村上 健俊	事務
理事	村上 将仁	事務
理事	八島 渡	事務
理事	柳谷 潤	看護師
理事	山内 英二	事務
理事	山崎 潤	事務
理事	荒木 関匡孝	事務
理事	工藤 敏子	事務
理事	坂野 友昭	事務

## 健生病院フルマッチ10名達成 医師臨床研修マッチング2021

10月28日(木)、初期研修医の採用に関して医師臨床研修マッチング協議会から2022年度入職予定のマッチング結果発表があり、健生病院では2003年の制度開始以来、史上初かつ歴代最多人数となるフルマッチ10名の快挙を達成しました。

医学生の就職活動は2003年導入のマッチング制度が特徴的で、全国



オンライン面接の様子

の研修病院と医学生を希望順にすり合わせる独特の仕組みがあります。また、研修病院が採用できる人数も限りがあり、病院の規模や指導医数などによって決まっています。青森民医連の研修病院である健生病院はこれまで一度もフルマッチ、つまり定員を満たす採用をできずにいる苦しい状況が約20年間続いてきました。

しかし、2015年度提起の医学対大運動に端を発する数年間に及ぶ地道かつ積極的な活動を継続してきました。コロナ禍で採用面接もオンライン実施に変更せざるを得ない対応



速報を手に喜ぶ伊藤真弘医師(健生病院 院長)と田代美医師(青森民医連会長)

などもありましたが、今回遂にフルマッチを達成することができました。これはこれまでに関わりがあった全ての職員の協力の賜物です。

無差別平等の医療実践を通じた地域貢献には生き生きと働く医師の確保と養成が欠かせません。今後も皆様のご理解ご協力をお願いします。

(青森民医連/齊藤駿介)

第15回

## 全日本民医連学術・運動交流集会

～憲法が生きるコロナ後の新しい社会へ力を合わせよう～

10月22日(金)～23日(土)にオンラインで開催されました、第15回全日本民医連学術・運動交流集会に参加しました。のべ4820のアクセスがあり、様々な分野で働く方々の貴重な御講演を拝聴しました。

二日間を通して感じたことは、どの分野・職種であっても、患者様・地域の方々に対して、無差別・平等を基本とした医療を提供されているという点です。また、SDHの視点から考えられている症例についても多く見受けられました。

目の前にいる患者様がなぜ病気になるってしまったのか、健康問題を考える上でSDHの視点は非常に重要であると思えます。貧困や十分な教育を受けられない等といった社会的要因があることを把握しアセスメントすることは、治療を終えたその先の未来についても広い視野を持ってサポートすることができるようになると感じました。

治療そのものだけでなく、生活背景や社会背景にも目を向けた医療を提供することの重要性について学ぶことができました。そして、必要な支援に繋がっていく架け橋になれるのが民医連の強みであると再認識する良い機会となりました。

貧困が理由で治療を中断せざるを得ない、患者になりたくてもなれない等といった方々が一人でも多く減少し、手遅れ死亡事例という言葉そのものがなくなるような社会作りのために、今後とも声を挙げていきたいと思えます。

(一般社団法人 あおもり健康企画/石田綾佳)

つながる心、つなぐ未来、  
～今年もやります！全国JB！新たな歴史の1ページをあなたと～

## 第39回 JB期全国青年ジャンボリー

11月26日(金)～27日(土)Zoomを使用して2年ぶりに全国青年ジャンボリーがオンライン開催され、青森民医連からは15名、全国から872名が参加しました。

記念講演では、フォトジャーナリスト安田菜津紀さんによる講演が行われ、班ごとにグループディスカッションを行い意見交換をしました。内戦が勃発するシリアに足を運び現場の声を聞き、普通という当たり前が取り除かれてしまっている事に衝撃を受けました。また、東日本大震災から今年で10年を迎えましたが、当時の状況が思い出されただけでなく、進む復興の一方でまだ行方不明者が残っている事実を知りました。

1日目の企画終了後の夕食交流会では、少人数でグループ分けを行い、お酒を飲みながら、画面越しにゲームを行ったり自己紹介を兼ねた出身地の見どころをPRしあったりして、最終的には22時頃まで盛り上がり1日目が終了しました。2日目は分科会でのテーマごとに分かれた講演を聞き、1日目同様に、様々な意見交換や感想を述べ合いました。私自身、ら

い病(ハンセン病)に纏わる講演を傾聴しましたが、らい病を治療する場において人的扱いを受けていない人がいる事、治療の場にも十分なプライバシーが確保されない状況での生活を強いられていたことに憤りを感じました。らい病療養所も全国的に見ると少ない現状に驚きました。

2日間を通し、事務局、実行委員では2カ月に1度のZoom会議を通して入念な打ち合わせを行い、初のオンライン開催の為様々なトラブル発生も予測していましたが、特段機材、通信トラブルも発生する事なく、各県連からも「楽しかった。」「直接対面で皆さんにお会いしたい。」等の意見を頂きオンラインでの開催は大盛況に終わりました。(協立訪問看護ステーションさくら支所/佐々木達也)

# 養成ワークショップⅢ および経営学習会

11月20日(土)に事務幹部養成ワークショップを開催しました。第1部に「東信医療生協の経営破綻から学ぶ」と題して現地で対策委員長を務められた全日本の寺山次長を講師に学習会を開催しました。



会場の様子

東信医療生協が経営破綻に至った原因と経緯は多くの民医連法人に共通する課題や弱点として極めてリアルであり、経営改善に向けた取り組み

は非常に大きな教訓となるものでした。講師の寺山次長より「対岸の火事ではなく我が事として受け止めて欲しい」と強く訴えられましたが、このことは経営改善に向けて経営幹部や役職者へ意識改革を求めるメッセージでもありました。実際に参加したほとんどの方から行動変容に繋がる肯定的な感想・意見が多く寄せられました。今回学習会に参加できなかった方も東信医療生協の総括文書をぜひ一読していただくことを呼び掛けたいと思います。

第2部では学習会を受けて事務幹部によるグループ

ワークを実施し、経営改善に向けた重要課題を3点にまとめて発表しました。久しぶりに顔を合わせたこともあって大いに盛り上がり交流を深めることができました。全体を通じて、厳しい経営状況の中だからこそ民医連綱領の実践と事務幹部の役割が強く求められていることが分かる学習となりました。

(株式会社ファルマ 専務取締役/崎野 修)



グループワークの様子

2021年度

## 県連事務職員基礎研修

～民医連の事務職員像を知る～

二〇二一年十一月十八日、青森・弘前・八戸計五会場をつなぎオンラインで開催しました。この研修は原則入職一年目の事務職員を対象に毎年開催しています。今年度は県連内の四事業所から八名が参加しました。

最初に田中委員長から今回の研修の獲得目標と開催意義を説明いただき、アイズプレイクとして事前レポートをもとに自己紹介をしました。

しい仲間が増えたと感じるとともに、私自身も刺激を受けた研修となりました。  
(県連事務委員会 大野あけぼの薬局  
/吉田和美)

第一講座は(株)ファルマの阿部千佳子課長補佐より接遇の大切さや電話対応やビジネスマナーについてクイズを交えながら講演いただき、第二講座は『先輩の経験から学ぶ』と題し、八戸生協診療所の梅津諒事務長よりご自身の葛藤や入職してよかったことなどを講演いただきました。その後二グループにわかれGWを行い講座の感想を報告し、最後に一人一人が一年後の自分への手紙と三年後はどうなっていたかを記入し終了となりました。

接遇に関して様々なポイントがあることを知った・先輩の経験を聴いて考え方が変わったなど、各々刺激をうけたようです。熱心にメモを取る姿を見て、頼も

青森会場 協立クリニックでの様子



11月25日から2日間、北海道・東北地協事務幹部学校の第3クールが開催され、40名が参加しました。

第3クールでは、沖縄の“歴史”と“今何が起きているのか”を学びました。ニュースや紙面では伝わっていない現地の声を聞き、大変貴重な機会となりました。

沖縄の小学生たちは、米軍の飛行訓練が始まるとシェルターに避難します。沖縄の住民の命を奪う交通事故を起こした直後、ただ見ているだけの米兵がいます。このような異様で衝撃的な光景、想像を絶する歴史や現状を目の当たりにして、様々な感情が一気に押し寄せてきました。「怒りを行動に移さなければ、悲劇が繰り返される」という強い思いを持って団結し、闘い続けている沖縄の方々熱量を感じました。



シェルターへ避難することが日常となっている小学生の様子

やりたい放題の米軍に、これまで多くの命を奪われ国民の生活が脅かされているにも関わらず、日本政府は抗議することはありません。その上、多額の在日米軍経費を負担しています。国民の命よりも日米地位協定を優先し続ける政府に憤りを覚えました。それを正当化し、沖縄の人々の声を伝えようとしないメディアのあり方にも疑問を抱きました。

先日、米軍三沢基地所属の戦闘機が深浦町に燃料タンクを投棄し、青森空港に緊急着陸しました。沖縄や米軍基地がある地域だけの問題ではなく、日本全体の共有の課題として考えていく必要があると思います。“平和とは何か”“何をもちて平和とするのか”を常に問い続け、行動していかなければならないと深く考えさせられました。(津軽保健生活協同組合 総務部/佐藤綾子)

## 第50回 青森県民医連 看護介護活動交流集会

初めてのオンライン開催

2021年11月7日(日)、第50回青森県民医連看護介護活動交流集会が、初めてとなるオンラインでの開催となりました。総勢100名程度が参加し、『地域を結びいのちの架け橋 ～その人らしさを支え続ける～』というテーマで、青森側・弘前側それぞれに3つの分會に分かれ、17演題の発表が行われました。

前回の看護介護交流集会是コロナ感染拡大の影響で、初めて中止となりました。コロナの収束が見込めない中、集合での実施は難しいと判断し、第50回目を迎える看護介護交流集会是オンラインでの開催にこぎつけ、委員も必死にZoomの学習に取り組み、何度も何度もシミュレーションをして、ようやく当日を迎えることができました。初めてのオンライン開催ということもあり、残念ながら特別講演は断念せざるを得ませんでした。3つの分會に分かれ活発な意見交換が行われました。各会場には発表者・講評者のみの少人数が集まり、参加者は自宅や職場からリモートで参加されました。17演題の発表は、コロナ禍での関わりの困難、長期に関わった患者のナラティブ、思春期患者の問題など多岐にわたっていましたが、どの発表も私たちが目指す民医連看護が受け継がれてきた内容で、50回を記念するすばらしい発表になりました。

初めてのオンライン開催のため小さなトラブルもありましたが、今後も無差別・平等の精神・看護介護が受け継がれ、この会が51回、52回と続いていくことを願います。(看護介護小委員会委員 健生クリニック 内科外来/三上直子)



## 連載 第44期全日本民医連

### 人権としての社会保障セミナー

#### 第三回目、第四回日の参加報告

第三回目は十月十一日(月)、第四回目は十二月十三日(月)、オンラインにて開催しました。

第三回目は、「民医連のソーシャルアクションを实践から学ぶ」として、三つの実践報告をお聴きしました。まず、医療生協かながわ生協戸塚病院の住岡智子師長より「発熱患者対応から移送車両を確保するまで」の報告がありました。次に、一般社団法人中信保健企画

の浦沢剛事務長より「松本市による生活保護受給者への『特別なお薬手帳』配布について」のお話があり、最後は全日本民医連の林泰則事務局次長より「コロナ禍のもとでの介護ウェーブの取り組み」について報告がありました。三つの実践報告をお聴きし、お

かしい」と思ったことをそのままにせず、その問題・課題に本気で取り組むことが大切だと感じました。

第四回目は、全日本民医連増田剛会長より「民医連の社会的使命について考える」について講義をいただきました。「たかろう」とは、憲法を生かすこと、「権利としての社会保障」はたかろうこそ得られるもの」とのお話しに、この世の中の不条理に声を上げ、たたかっていたいと、強く感じました。人々の困難に寄り添い、これからも社会保障活動にしっかりと取り組んでいきます。(フアルマ弘前薬局/工藤由希子)



♥ **name**  
猫: 茶→ちゃっぴー  
♥ **age** 2歳半オス

♥ **name**  
猫: 黒→なーたん  
♥ **age** 1歳半オス

# うちの メコッコ

vol. 65

うちにはお犬様・お猫様が5匹います。  
寒くなってきたので、お犬様は外に行くのを嫌がりストーブ前を占領し、お猫様2匹はいつもピッタリ寄り添って寝ています。時には家中を走り回り、大運動会やわんにゃんプロレスが開催されます。  
お世話係は大変ですが、それ以上に仕事で疲れた頭を癒してくれています。

今年も新しいお洋服と首輪とオヤツを買ってあげようかなー(貢いでますな…)  
(藤代健生病院(看護師) / 中西奈美)

♥ **name**  
犬: 上→ゆず(マルプー)  
♥ **age** 10カ月メス



♥ **name**  
犬: 下左→ぶーこ(チワワ) ♥ **age** 6歳メス

♥ **name**  
犬: 下右→もも(マルチーズ) ♥ **age** 8歳半メス

## 私の三つ星★★★★

### オススメ 星野リゾート青森屋

新型コロナ流行前の冬に、【星野リゾート青森屋】に家族で泊まりに行きました。コンセプトが青森のテーマパークだけあって、津軽三味線、民謡、金魚ねぶた飾り、灯籠、馬車、りんごジュースが出る蛇口、ホタテ釣り、雪ん子になりきって公園散策などなど、たくさんのアクティビティがあり、子供も大人も楽しめるようになっています。



食事はビュッフェ形式で種類も豊富でどれも美味しい! のっけ丼、一口ステーキ、魚の串焼き、ホタテの網焼き、その他スイーツも充実。私の一番のお気に入りには姫にんにくの天ぷら。甘みがありホクホクしていて何個でも食べられちゃう美味さでした!



そして温泉は源泉かけ流しのとろみのあるお湯で、池に浮かぶ露天風呂ではねぶり流し灯籠を楽しむことができ、雪景色が幻想的にライトアップされていて最高に癒される時間でした。ワクワクが止まらない非日常な空間で大満足! でした(^) コロナが落ち着いたらまた必ず行きたいです♪

(ディサービスつつみ/ 櫛引昌代)

## 2022年1月 第21回理事会報告

- >> 全日本民医連理事会報告
- >> 決裁事項
  - 県連看護学生小委員会 2021年度合同総括会議
  - 県連リハ委員会介護部会 学習企画・情報交換会について
- >> 協議事項
  - 青森民医連第56回定期総会関連
  - 全日本民医連第45回総会関連
  - 5月県連理事会 日程変更の提案
  - 新型コロナウイルス対応について
- >> 各種委員会
  - 薬局活動交流集会報告
  - 事務職員基礎研修
  - 第50回県連看護介護活動研究交流集会報告
  - 各種委員会報告・署名到達
- >> 報告事項
  - 「第44期認知症実践セミナー」の開催について
  - 2021沖縄民医連平和をまもるたたかいかんぱ活動グッズの件
  - 第44期IT担当者研修・交流会 開催案内(第1報)など
- >> 会務報告/各委員会・医師委員会報告

機関紙  
編集部まで  
info@aomin.jp

**投稿募集!!**

2021年度

# 薬局活動交流集会

十一月十三日(土)二〇二一年度薬局活動交流集会が開催され、病院薬局・保険調剤薬局の薬剤師および事務職員総勢六十二名(薬剤師六十名、事務二名)参加しました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、今年度は二年ぶり初のオンラインでの開催となりました。今回は「県連薬剤師間の交流を重視する」「コロナ禍での薬剤活動報告をする」そして、「若手薬剤師の発表の場を作る」この三点に重点を置いて企画を実施しました。

はじめに薬局四法人より、テーマ「コロナ禍での薬剤活動報告」今、伝えたいこと」の報告が行われました。各法人、様々な観点でもって分かりやすくスライドにまとめられ、全て学び深い内容でした。

参加者からも質問や感想が活発に出され充実した意見交換の場となりました。次に、一



年目から三年目薬剤師による「二分間スピーチ」と先輩薬剤師による「後輩たちへの三分間スピーチ」が行われました。しばらくコロナ禍で、県連薬剤師間の交流ができていませんでしたが、今回顔を見ながら各自の目標や現在の心境、そして後輩への励ましを聞くことができ、初のオンライン形式というのが感じられないほど楽しく交流を深めることができました。

全体を通して、この薬局活動交流集会は県連内の薬剤師集団が集結し交流を深めるための大変貴重な場となっていることをあらためて確認することができました。それと同時に、過去の『対面形式で交流会』のありがたみと重要性も再認識しました。今集会で

学習した内容や意見交流した内容を生かし、今後の活動をますます活発なものにしていきます。

(県連薬剤師委員会 委員長

相馬 渉)



2022年 お年玉 AOMORI MIN-IREN 応募用紙

『わたしの好きな四字熟語』とその理由を教えてください(自分で作った四字熟語でもOK)

例：「疫病退散」理由：今の切なる願いです  
例：「屋外宿泊」理由：家族で2022年はキャンプができますように。

四字熟語「 \_\_\_\_\_ 」

理由： \_\_\_\_\_

応募の詳細は8面(裏面)をご覧ください。

学生応援プロジェクト

# 「大学生食材支援」の取り組み

## 八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部へ支援

コロナ禍の影響によりバイト収入が減ったりオンライン授業で孤独に苦しんだりする学生さんの声を聞き「困っている学生さんを少しでも支えたい」と日頃よりボランティア活動や看護実習などでお付き合いのある八戸学院大学・短期大学部への食材支援が実現しました。

贈呈式では両理事長の挨拶の後、組合員さんや職員、取引業者様から寄付いただいた食材や日用品セット(100人分)を渡すことができました。学生さんからは「バイトは日数が減らされ、親からの援助はあるものの学用品や部活動などに必要なものがあつてを我慢するかとなると食費。このようなご支援は大変助かります。ありがとうございます」と言葉をいただきました。改めて、ご支援いただいた沢山の方々に感謝すると同時に人と人とのつながりや思いやりの大切さを感ずる取り組みとなりました。

(八戸医療生活協同組合 本部 組合員活動部長/木村儀弘)



日頃のご愛読・ご協力に感謝して \ 定期便で応募OK /  
抽選で **22名** にお年玉プレゼント

図書カード **1等**(2名)3,000円分 **2等**(5名)1,000円分 **3等**(15名)500円分

下の応募用紙を切り取り、必要事項を記入して定期便又は封書・FAXで青森県民医連青森事務所までお送り下さい。抽選の結果は3月号(3/15発行予定)に掲載いたします。

**ご注意** 郵送する場合は事業所の封筒や切手の利用はご遠慮下さい。

2022年 お年玉 AOMORI MIN-IREN 応募用紙



機関紙「あomorい民医連」  
お年玉プレゼント 係



必ず、下記と裏面も忘れずにご記入下さい。

事業所名

ふりがな

所属部署

お名前

応募切/2022年2月16日必着 定期便・封書・FAXにてご応募下さい。